西東京教区だより　第44号

～信仰・伝道の交わりを共に～

（右）８月５日～８日、北海教区興部伝道所との交流プログラムが行われました。（２～３頁）
（左）８月５日～７日、今年も中高生キャンプが北軽井沢で行われました。（６頁）

巻頭言

「地上の星」

西東京教区総会副議長　宣教委員長　**山畑　謙**

クリスマスにちなむお話と言えば、『マッチ売りの少女』を思い起こします。アンデルセンの童話です。

貧しい家の少女はマッチ売りに街に出されます。売れずに帰ればお父さんにぶたれてしまいます。寒い雪の大晦日、マッチを買ってくれる人など誰もおりません。少女は路地にうずくまり、あまりの寒さにマッチを一本すって暖まろうとします。マッチの光の中に、暖かなストーブが現れますが、マッチが消えるとストーブも消えました。二本目はご馳走の並ぶ食卓が。しかしやっぱりみんな消えてしまいました。三本目は美しいツリーが。たくさんのろうそくが灯されていますが、マッチの火が消えると、その光がみんな天にのぼり星になりました。その一つが流れ星になった時、少女はこの世でたった一人自分をかわいがってくれた、亡くなったやさしいおばあさんを思い出しました。四本目のマッチの光の中に、そのなつかしいおばあさんが現れました。少女はおばあさんをなんとか引き留めようと、残りの束のマッチをすりました。すると明るい光の中、おばあさんが少女を腕に抱き上げて、高く高く空に昇っていきました。寒さも、ひもじさもない神のみもとに連れていったのです。翌朝、少女は街角で凍えて死んでいました。口元に、ほほえみをうかべたままで。結びの言葉はこうです。「少女がどんなに美しいものを見たのかを考える人は、誰一人いませんでした。少女が、新しい年の喜びに満ち、おばあさんといっしょにすばらしいところへ入っていったと想像する人は、誰一人いなかったのです。」(Copyright(C)1999 Hiroshi Yuki)

この悲しいお話は、クリスマスには似つかわしくないでしょうか。アンデルセンは、少女の悲惨さによって、いわゆるお涙頂戴的に世の人びとの同情を喚起して、慈善に励みましょうとお勧めしようとしているのでしょうか。現実はどうしようもないほど悲惨です。しかし、それでも少女は暖かく美しい光を見出し、やさしいおばあさんを見出し、そして喜びに包まれて神様のもとへいったと言うのです。でもそれを、町の人たちは知らない。このギャップが最後のオチになっているのです。少女は絶望して、悲しみを抱えて死んでいったのではない。喜びに包まれて、口元にはほほえみさえうかべて、高く高くのぼっていった。その喜びとは、彼女の存在を唯一認めて大切にしてくれたおばあさんと再会し、一緒にいることができるということ。その喜びが悲惨な苦悩の中に、明るい輝きとほほえみをもたらしています。

赤児のイエス様は、やがて十字架に架かられます。最悪の悲惨さを身に負われます。主はその十字架によって、誰からも認められなくして、人を一人ぽっちにしていく罪の壁を打ち壊し、復活して今も生きて、言ってくださいます。「お前は尊い価値ある存在なのだ、そんなお前とどこまでも一緒にいよう」と。私という人間を、命の代償を払ってまでしてその罪を赦し、私の存在を尊いものとして受け入れ、一緒にいてくださる。それは苦悩に満ちるこの地上においてすでにはじまっており、そしてやがて涙がまったく拭われる永遠の御国にまで続くのだと約束してくださっています。クリスマスは、その喜びの光が灯される時。

教区内諸教会・伝道所が、この喜びを証し、福音の光を輝かせていく時、天から神がご覧になったら、暗く深い闇が覆うこの地上にあって、小さくともしっかりと輝く地上の星のように見えるのではないでしょうか。私はそんな教区の姿をクリスマスにあたり心に思い描くのです。

（小金井緑町教会牧師）

北海教区興部（おこっぺ）伝道所との交流プログラム

2013年８月５日（月）～８日（木）、北海教区興部伝道所との交流プログラムが行われました。西東京教区からは、６教会より、小学３年から中学１年までの８名の子どもたちが参加し、引率者２名と共に夏の北海道に赴きました。旭山動物園、西興部村鹿牧場、木夢（こむ）（木製の遊具で遊べる施設です）、雄武町（おうむちょう）ブルーグラスファーム、紋別市流氷科学センターなど、多くの場所に連れて行っていただき、楽しい時を過ごしました。そして、４日間という限られた期間ではありましたが、西東京教区の子どもたちは、興部伝道所からの参加者である中学１年の堤田ひじり君と都築壮也君、また興部伝道所と関わりがある「はまなす幼稚園」と幼稚園が行っている学童保育「はこぶねハウス」から参加した20数名の子どもたちとすっかり仲良くなりました。今回の交流プログラムを通して与えられた出会いと経験は、北海道ならではの豊かな自然に囲まれた風景と共に、参加した子どもたち一人ひとりにとって忘れ難いものになっただろうと思います。豊かな交流プログラムの時が与えられたことを、心から主に感謝したいと思います。そして、興部伝道所の伊藤大道先生と教会員の皆さん、道北クリスチャンセンターのウィットマー先生ご夫妻をはじめ多くの方々のご協力があって実現したプログラムであったことを忘れることはできません。ご協力くださった皆さまに主にあって感謝すると共に、お一人おひとりの上に主の豊かな祝福をお祈りいたします。

以下は、西東京教区からの参加者である岩田真悟君（狛江教会）と願念香さん（国分寺教会）が書いてくれた感想文、また興部伝道所からの参加者である都築壮也君へのインタビューです。３名の子どもたちの感想を通して、今回の交流キャンプで与えられた恵みの大きさをお分かりいただけるのではないかと思います。

（高井戸教会牧師　七條真明）

興部交流キャンプに参加して

狛江教会　岩田　真悟（小学６年生）

僕は８月５日～８日まで、北海道の興部交流キャンプに弟と一緒に参加しました。僕はこのキャンプに参加できたことを神様に感謝しています。普段は別々の教会で神様を礼拝している西東京教区の６教会の仲間たち、興部伝道所の中学生たち、はこぶねハウスの子どもたちと出会えて、仲良くなれたことがとても嬉しかったです。

４日間のプログラムは、どれもとても楽しかったです。初めに行った旭山動物園で見た狼の遠吠えがすごく心に残っています。鹿や牛、アザラシなど動物と触れ合うこともできました。流氷科学センターに行ったことも印象に残っています。そこでは、マイナス20度の所に入ってホッキョクグマの剥製を見たり、シャボン玉を凍らせたりしました。僕は「流氷」のことをもっと知りたくなったので、夏休みの自由研究のテーマを「流氷」にしました。バター作りも初めての経験でした。北海道ならではの食べ物はどれも美味しかったですが、特に初めて食べた鹿の肉が本当に美味しかったです。僕は自然豊かでオホーツク海に囲まれている興部が好きになりました。

朝と夜には、６人の方々の証を聞いたり、神様に祈る時をもちました。とても良い時間でした。「神様がいつもそばにいる」ということがよくわかりました。

僕は生まれてすぐに幼児洗礼を受けましたが、今年のクリスマスに信仰告白をすることを決意していました。このキャンプに参加して、ますますその気持ちが強くなりました。これからもこのような機会があったら積極的に参加したいです。色々な準備をしてお世話をしてくださった先生方、美味しい料理を作ってくださった名寄教会と興部伝道所の方々、僕たちのためにお祈りしてくださった方々に、心から感謝します。

最高に楽しかった興部交流キャンプ

国分寺教会　願念　香（小学６年生）

私は、キャンプで、同じ東京から北海道へ行く人や興部の人達と仲良くできるか不安でした。でも、この４日間で、西東京教区と北海道の興部教会、はこぶねハウスの人（友達）と仲良くなれて、とても嬉しいです。

３日目の夜に、私は夜の祈りの司会をしました。初めてやることだったので、とてもきんちょうしました。どういうふうに進めていけばいいのかわからなくて困った時もあったけれど、上手くできて良かったです。その時に、中学生の人がお話をしました。小６の時に洗礼を受けて、キャンプの夜の祈りでみんなにお話ができるのはすごいと思いました。

一番楽しかったことは、色々な場所でいろんな動物を見たことです。その中で印象に残っているのは、旭山動物園と西興部村鹿牧場の見学です。旭山動物園では、ホッキョクグマは人がたくさんいてあまり見えませんでしたが、ペンギンやオオカミ、クマなど、実際に初めて見ることができました。たくさん歩いたのでつかれたけれど、その分いい思い出をつくることができました。西興部村鹿牧場では、鹿とヤギを見ました。エサやりや、鹿のつのをさわったことが楽しかったです。

バーベキューや興部のアイスや食事は全部おいしかったです。でも、夜は寒くてびっくりしました。みんなで人生ゲームをしたのも、はこぶねハウスの人達と木の遊具でいっぱい遊んだのも楽しかったです。

このキャンプで会った友達や先生とは、いつ会えるかわからないので、このキャンプに行くことができて、本当に良かったです。ここでできた楽しい思い出を、いつまでも忘れないようにしたいです。

交流キャンプを振り返って

～興部伝道所の都築壮也君へのインタビュー～

今回の交流キャンプに参加した興部伝道所の都築壮也君（中学１年生）に、伊藤大道先生（興部伝道所牧師）がインタビューをしてくださり、キャンプの感想などをお聞きくださいました。

○キャンプで印象に残っていることは？

初めて会う友達と、キャンプの間、流氷公園や鹿牧場、西興部村の木夢などで遊んだことがとても楽しくて印象に残っています。

○東京から来た子どもたちについてどう思いましたか？

はじめは仲良くできるか分からなかったけど、すぐに仲良くなれたことがよかったです。

○西東京教区から来た子どもたちに、最初はどのようなイメージをもっていましたか？

都会っぽい子どものイメージです。（具体的には）おぼっちゃまのような子どもたちかなと思っていました（笑）。でも、実際に会うと普通にいっしょに遊んで楽しめる子どもたちでした。

○礼拝や朝夕の祈りの時間、特に中本奏子さん（境南教会）の証しを聞いてどう思いましたか？

平和ということについて考えさせられました。中本奏子さんも、普通の人に見えるけれどもいろいろと考えていることが伝わってきました。

○全体を振り返ってみての感想は？

（キャンプを通して）キリスト教への関心が深まりました。

○それはどの点について？

平和について取り上げているところです。

○もう一度今回のようなキャンプをするなら、また参加したいですか？

はい、ぜひ参加したいです。また、東京から興部に来てもらうのもいいですし、今度は自分の方から行ってみてもいいなと思います。

震災募金推進委員打ち合せ会～各教会の募金活動の取り組み

村山　めぐみ

10月5日、阿佐ヶ谷教会に於いて教区の震災支援募金担当者連絡会議が開かれ、21教会35名が集まった。各教会とも月の定めの献金や会堂建築・教団年金など多くの献金が望まれる中で、支援募金への様々な取り組みがあった。

教区作製の青い献金袋を利用の他、一口200円の献金袋を独自に作製したり、第5聖日の席上献金を捧げたり、クリスマスなどの時期に呼びかける。募金箱の常設や3月11日前後の期間限定の設置。バザーや日常的な物品販売、チャリティーコンサートなどによる募金活動。ある教会の有志により作られた復興たわし（アクリルたわし）が、他の教会にも分けられ、持ち帰った教会が募金活動に利用し、さらに自らも復興たわしを作り始めたというアイディアの輪の広がりもあった。また震災ボランティア参加者が現地の様子を伝えたり、石巻“おちゃっこサロン”で食べてもらうクッキーを焼いて送っている教会もあった。今後も多くの教会で息の長い取り組みとして続けられることを願う。

（阿佐ヶ谷教会員）

西東京教区の震災募金活動について

中嶌　暁彦（教区東日本大震災支援委員）

被災した方々や傷ついた教会に寄り添うことが出来れば幸いです。西東京教区（以下教区と略す）常置委員会は震災の知らせを受けて、直ちにボランティアの派遣を始めました。この動きと合わせて、教団が開始した10億円募金活動に積極的に参加することを決めました。募金目標の10億円に対して、教区は10分の1の**1億円を目標**とすることを決定いたしました。そして募金活動の組織は常置委員会の下に直接置いて、『東日本大震災募金推進委員会』が設置されました。委員長は当時の大村栄教区総会議長が就任いたしました。これは、2011年10月です。2013年度からの教区の東日本大震災支援に対する組織は、真壁巌教区総会議長が委員長をなさる「東日本大震災支援委員会」が統括しており、その中に募金推進委員会、チャリティーコンサート実行委員会、ボランティア派遣委員会の三つの組織が運営されています。

1億円を2011年11月～2015年3月末までに献げる、これが大目標です。募金活動がスタートした2011年10月迄に、既に2000万円がボランティア派遣費用として集まっていました。この2000万円を基礎として、2011年度の目標は800万円をプラスして、計2800万円としこれを年度目標に設定いたしました。その後の、2012年度～2015年3月までの3年間の目標金額は、各年度毎に2,400万円としました。これで合計1億円になります。

年間の目標金額2,400万円。この金額は教区の**負担金の約59%**に相当します。そこで教区内の各教会・伝道所には教区負担金額の約60%を震災募金の目標額の目安として考えていただきました。或いは、教区内の教会員のお一人が1ヶ月当たり500円の募金を献げた場合には、教区全体の礼拝出席者数が約4,400名として計算すると、年間で2,640万円となります。ここから**一人1ヶ月500円を献げていただく目安**としました。そして個人が献げる募金のために、教区は**震災募金専用の募金用の袋**を用意し、ご希望する教会へお送りしました。これが青い封筒と呼ばれている献金袋です。このように募金目標金額を個々の教会単位、またはお一人おひとりの信徒単位にし、身近な例を引いた**募金趣意書**を各教会・伝道所宛てに一斉に発送をして、震災募金のご協力をお願いいたしました。これは2011年11月末のことです。

震災募金を献げることは主イエスの幹に繋がる枝であること、即ち**教区の一体感**がなければ大きな目標金額を達成することができないと思います。この理念を大事に生かして、教区の震災募金推進委員会を立ち上げました。これは各教会・伝道所で**震災募金推進委員**の方を選んでいただき、この方々が各教会の中での募金活動の中心となっていただきました。教区の**募金推進委員打ち合せ会**は2012年2月より半年に1回の割合で継続して開催しています。最近は10月5日（土）に阿佐ヶ谷教会で開きました。合計21教会から35名の震災募金推進委員の方々が集まりました。この会議では各教会の募金活動の実情や募金推進の工夫や企画、また教区への率直な要望が語られます。各教会の推進委員の方は必ず発言をしていただきます。逆に教区からのお願いがある場合は、ここで推進委員の方々にお伝えをしています。次回は2014年2月8日（土）に開催する予定です。

募金は献げるだけではなく**教区としての連帯**の気持ちが大事です。この目標の基に教区全体の思いとして、震災募金のための**チャリティーコンサート**を毎年3月に開き、2014年度まで継続する予定です。毎回300名～400名の方々が集って盛大な集まりとなっています。会場のロビーには被災地の写真や教区から派遣したボランティアの奉仕活動を併せて紹介し、教区の働きを纏めてご報告するよい機会としています。

一方では、教区の皆さんの気持ちを一つにするしるしとして、教区募金推進委員会は**Tシャツやトートバッグ**を作製しました。これを買っていただいた場合には、その約30～50%が募金として献げられます。各教会・伝道所はバザーや修養会などの集まりで、また教区は教区総会、婦人全体集会、社会委員会、壮年会の大会、宣教協議会をはじめとする集いで販売して募金への連帯感の証としています。

2013年10月29日現在の教区の募金金額は累計で81,418,037円です。11年度～13年度の目標に対して107.1%、1億円へは81.4%までできました。

最後に、皆さんTシャツとトートバッグによる募金への協力を是非お願いします。西東京教区事務所までお申し込みください。Tシャツは子供用を除いて完売しました。これからは是非、トートバッグでのご協力をお願いします。

トートバッグは「パンと魚」と「イザヤ書55章」の2種類があります。大きいのが1500円、中型が1200円です。中型の「イザヤ書55章」は完売しました。皆さんのご注文をお待ちしています。

なお、教団の救援対策本部ニュースは教団内1700の全国の教会・伝道所に3部ずつ送られています。第10号は8月12日に発行され、募金促進のために作ったポスターと全教会の献金額リストが同封されていました。ポスターは各教会・伝道所に貼っていただき、募金のご協力を呼びかけましょう。ちなみに11号は10月15日に発行されました。救援対策本部ニュースは教団のホームページからダウンロードができますのでご活用ください。

（八王子教会員）

－この原稿は、教団救援対策本部ニュース第10号に掲載した内容を一部加筆削除しました－

西東京教区「祈りのカレンダー」

2014年１月19日～５月３日

西東京教区では、教区内諸教会・伝道所、関係諸団体を覚えて「祈りのカレンダー」を作っています。「祈りのカレンダー」を通して互いの課題を知り、祈りをあわせ、連帯する教区の実践が続けられていくことを願っています。どうぞこの祈りの輪に加わってくださいますように。立川からしだね伝道所では朝礼拝が始まりました。引き続き「立川開拓伝道の積極的展開」、「教区青年活動の充実」、「他教区との交流」、「東日本大震災被災教区への継続的支援」、それぞれの継続と実践のためにお祈りください。　（教区伝道部委員長　有馬尊義）

教区の祈り

2014 年

- １月　教区内幼稚園・学校・施設との協力関係
- ２月　他教区との交流
- ３月　世界の教会との交流
- ４月　協力伝道の支援
- ５月　教会互助の推進

1月 19 日～ 25 日
東北教区被災者支援センター・エマオ

〒 980-0012　仙台市青葉区錦町 1-13-6（エマオは、「寄り添い＝スローワーク」と「お祈り」を大切に、これからも活動をつないでいきます。引き続き、お祈りとお力添えでお支えください。）

【祈りの課題】
一年の中で最も寒い季節に入っています。被災者お一人おひとりの健康が守られ、支えが与えられますように。

1月 26 日～2月1日
調布教会

〒 182-0024　調布市布田 2-28-16 ／牧師・田村　博／創立 1934 年／現住陪餐 104 ／礼拝出席 75 ／祈祷会出席 16 ／ CS 出席 6 ／予算 1436 万円

【祈りの課題】
発足した将来構想委員会を核に中・長期的ビジョンを共有しつつ、新会堂を中心に地域や幅広い世代への宣教を展開出来ますように。

2月2日～8日
調布柴崎伝道所

〒 182-0024　調布市布田 4-7-8-103 ／牧師（代）・織田信行／創立 1986 年／現住陪餐 1 ／礼拝出席 6 ／予算 12 万円

【祈りの課題】
障がいを負う人々･子どもたちと「共に歩む」宣教活動を開始して 27 年、機関誌「共に歩む」も 107 号になりました。大きな志を持つ小さな群れのためお祈りください。

2月9日～ 15 日
東京府中教会

〒 183-0016　府中市八幡町 3-18-10 ／牧師・北村智史／創立 1947 年／現住陪餐 54 ／礼拝出席 46 ／祈祷会出席 19 ／ CS 出席 5 ／予算 953 万円

【祈りの課題】
新たに受洗・転入会される方々の信仰の歩みが、神様によって祝されますように。また、CC（教会こども会）の礼拝に子どもたちが与えられますように。

2月 16 日～ 22 日
稲城教会

〒 206-0802　稲城市東長沼 1086 ／牧師・清水信浩／創立 1949 年／現住陪餐 33 ／礼拝出席 24 ／祈祷会出席 3 ／予算 534 万円

【祈りの課題】
地域における宣教の課題が与えられますように。教会周囲の区画整理が早期に終了し、開かれた教会としてその存在を証ししていきますように。

2月 23 日～3月1日
聖蹟桜ヶ丘教会

〒 206-0001　多摩市和田 6-9 ／牧師・八木靖之／創立 1968 年／現住陪餐 7 ／礼拝出席 11 ／予算 100 万円

【祈りの課題】
この小さな群れに新しく招かれた方々の心に、主の愛と恵みが充分に注がれますように。教会の裾野がこれからもますます広がりますように。

3月2日～8日
永山教会

〒 206-0014　多摩市乞田 1225-1 ／牧師・西川幸作／創立 1974 年／現住陪餐 112 ／礼拝出席 84 ／祈祷会 5 ／予算 1066 万円

【祈りの課題】
人生の課題を担われ救いを求めている人びとに開かれた教会でありますように。その人びとが礼拝を通して生きる意味を見い出すことが出来ますように。

3月9日～ 15 日
東京復活教会

〒 206-0012　多摩市落合 2-21-1 ／牧師・小田原紀雄（主・兼）、田村信征、福島　真、高橋和彦／創立 1948 年／

【祈りの課題】
羽生の地に 1500 坪の土地を取得。教会の壁の中に招じ入れることが「伝道」の主たる業でないという「宣教」の実践を試みようとしております。

3月 16 日～ 22 日
高幡教会

〒 191-0032　日野市三沢 4-2-3 ／牧師・浅原一泰／創立 1968 年／現住陪餐 79 ／礼拝出席 49 ／祈祷会 15 ／ CS 出席 8 ／予算 1187 万円

【祈りの課題】
幼子から高齢者に至るまで、一つなる神の家族として歩むこと、若い世代へと信仰が継承されることを目指して歩んでいます。お祈りください。

3月23日～29日
鶴川教会

〒195-0073　町田市薬師台2-9-7／牧師・瀬戸英治／創立1957年／現住陪餐100／礼拝出席74／CS出席19／予算1215万円

【祈りの課題】
ひとりひとりの存在を認め合い、その多様性を生かした信仰共同体をめざしています。地域に開かれた教会として喫茶を開店中！

3月30日～4月5日
鶴川北教会

〒195-0051　町田市真光寺1338-6／牧師・秋永好晴／創立1976年／現住陪餐134／礼拝出席68／祈祷会出席11／CS出席19／予算1329万円

【祈りの課題】
鶴川の地に根ざし、より一層、福音宣教に力を注ぐと共に、地域や社会の課題を積極的に担い、神とこの世に仕える教会になって行けますように。

4月6日～12日
玉川教会

〒194-0041　町田市玉川学園4-5-32／牧師・竹澤知代志（主）・伊藤多香子／創立1947年／現住陪餐110／礼拝出席65／祈祷会14／CS出席9／予算1387万円

【祈りの課題】
会員の半数が70代以上、急激な高齢化が進む中で、教会創立70周年を迎えます。新しい時代の教会・伝道のあり方を、模索し、祈っています。

4月13日～19日
原町田教会

〒194-0013　町田市原町田3-9-16／牧師・宮島牧人／創立1910年／現住陪餐148／礼拝出席97／祈祷会出席（昼）10、（夜）6／CS出席24／予算1659万円

【祈りの課題】
「神の同労者」としてのキリスト者の群れとなり、福音に生かされて、福音を伝え、教会が開かれた交わりをつくれますように。

4月20日～26日
町田ベテル教会

〒194-0021　町田市中町2-4-8／牧師・佐々木良三／創立1955年／現住陪餐25／礼拝出席19／祈祷会出席5／CS出席5／予算355万円

【祈りの課題】
当教会から送り出した二人の神学生が、神様への賛美で溢れた伝道者となりますように祈っています。

4月27日～5月3日
成瀬台教会

〒194-0043　町田市成瀬台2-21-47／牧師・迫川道子／創立1978年／現住陪餐94／礼拝出席63／祈祷会出席15／CS出席18／予算1118万円

【祈りの課題】
1．一人一人が神の選びと召しに礼拝をとおして応えていきたい。
2．新会堂が与えられて10年、今度は牧師館建設計画が始まっています。

明治学院創立150周年にあたって

明治学院中学校・東村山高等学校　校長
孫　永　律

西東京教区内にある明治学院中学・東村山高等学校が今年で開校50周年を迎え、校長でいらっしゃる孫永律先生に寄稿していただきました。（教区報編集委員会）

明治学院は幕末の1863年に横浜で始まった日本で最も古い私学の一つで、今年2013年に学院創立150周年を迎えました。同時に、学院の一つの枝である、わが東村山高等学校も今年、開校50周年を迎えました。本校は1963年に開校、その3年後に白金から東村山に明治学院中学校が移転して中高6年の一貫教育体制となり、さらに1991年に男子校から男女共学化して現在に至っています。旧約聖書では「ヨベルの年」が50年ごとに再び原点に立ち還る年とされていますが、今年は明治学院にとっても、明治学院中学校・東村山高等学校にとっても、再び原点に立ち還って、新しい歩みを始める大切な時だと思っています。

「ヘボン式ローマ字」で有名な学院の創始者ヘボン博士（Dr. James Curtis Hepburn, 1815～1911）は、米国長老派教会派遣の医療宣教師として、混乱とキリスト教弾圧の続く幕末に来日し、伝道者、医師、教育者、学者として多くのものを残しました。1863年に横浜の居留地の施療所の一室を教室に夫妻で始めた英学塾がヘボン塾と呼ばれ、他の宣教師達による私塾と後に合流して明治学院となりました。「150年」は遠く隔たった年月の様ですが、今年のNHK大河ドラマ「八重の桜」や2011年のTBSドラマ「JIN －仁－」には、時代と格闘する登場人物に明治学院ゆかりの方々も含まれて親しみを覚えました。ドラマは封建的な幕末の出来事の中で時代を越えた人間の在り方を問い、その当時から明治学院が目指した教育や果たした役割が垣間見えるようでした。明治学院に限らず、宣教師達は神の前の平等、真理の探究、国と民族を超えて一致する大切さ、人間が身分に縛られず近代的な市民として生きる関係を求めました。近現代史の150年は、日本が東洋の小国から軍国主義や戦争の困難を経て今日の先進国へと成長した時代にあたりますが、この間に明治学院も波乱に満ちた時代を乗り越えて、数名の草創期から中高大14,000人の学生・生徒を擁する大きな学院に成長しました。

さて先日、ある卒業生が数年ぶりに訪ねてきました。キリスト教とはなじみのない家庭に育ち、高校で初めてキリスト教に触れた生徒でしたが、卒業後何年も経ってから教会につながり、今は毎週礼拝に出席しているとのことでした。「毎朝の学校の礼拝は、自分には睡眠の時間であり、近くの教会への礼拝出席も聖書授業の課題のためで仕方なくだったが、今思うと種が蒔かれていたのだと思う」と…。

キリスト教教育の根は教会にあると考えています。多くの生徒は入学後に初めてキリスト教に触れますが、在校中の教会出席から信仰に導かれる生徒や卒業後の何かの転機に信仰生活に入る例をよく耳にします。学校として教会出席を奨励し、卒業してからも教会に連なり、時が良くても悪くても、人生を主イエスと共に正しく豊かに歩んで行ってほしいと願っています。私たちは、種蒔きの思いを持ってキリスト教教育を行い、魂の救いを神様に委ねています。教区の教会の皆様には、いつも生徒達を暖かく迎え、お祈りによって支えていただいていることを、改めて深く感謝申し上げます。

ヘボン博士が祈りによって蒔いた種が、神様のご計画の中で大きくされ長く続き、今日の明治学院へとつながっていることを感謝すると共に、この変化の大きい時代、私学経営の厳しい中で何を目指していくのか、将来のビジョンを考え、これまでの困難と、それを乗り越えてきた歴史を土台として、学院全体で次の50年に備える出発の1年にしたいと思います。

西東京教区 中高生キャンプ報告

竹前　治（教育部委員長）

８月５日～７日にかけて、北軽井沢にある日本基督教団和泉教会研修所を会場にして、「believe and doubt －信じること、疑うこと－」（ちなみにこのテーマは教育部の委員会で決められたものではなく、高校生たちが、自分たちで決めたものです）のテーマのもと中高生キャンプが行われました。中高生が12名、スタッフが８名の合計20人の参加がありました。

今回はあいにく天候に恵まれず、２日間は雨で、３日目（東京に帰る日）にようやく良い天気となり、予定していたプログラムは変更を余儀なくされましたが、それなりに良いキャンプができました。

初日、お昼に北軽井沢の研修所に到着、あいにくの雨、午後予定したプログラム、アイスブレイキング（お互いに知り合い、仲良くなるためにゲームなどをします）も室内で、夜のプログラムはスタッフの教職３人をパネラーとして立てて、３人の教職にいろいろと質問をし、それに対して、疑っているか、それとも信じているのかを「！」と「？」のカードを上げてもらい、その理由を述べてもらいました。このパネルディスカッションをふまえ、子どもたちはGD（グループ・ディスカッション）に入り、一日が終了。

２日目は朝食のあとにデボーションをしました。なかなか聖書に親しむ時間が少ない子どもたちに短い時間でしたが、一つの聖句と真剣に向き合ってもらいました。そのあと、小雨だったので、近くの牧場に行き、少しの時間ハイキングを楽しみ、戻ってからDVD鑑賞。夜は雨もあがり、キャンプファイヤー、キャンドルサービスと無事行うことができました。

３日目、相手を本当に信じることができるかをゲームで試しました。それは一人が倒れ、倒れてくる人を後ろで数人の手で支えるというものです。やはり信じていても腰が引ける子どもたちもいました。

このキャンプで子どもたちと共に疑うことも時には大切であるけれども、疑うことからは疑いしか出せないこと。そして疑いの渦から救い出してくださる方はたったお一人、イエス・キリストしかおられないことを皆で確認できたキャンプでした。

（清瀬信愛教会牧師）

教区一日教師研修会

長谷川　洋介（教師部委員長）

一日教師研修会は９月９日に石岡記念教会を会場に行われた。今期の教師部は任期２年間の研修の統一テーマを定めており「教会形成に向けての教職のヴィジョン」であり、その中で今回は「私の教会形成のヴィジョン―長年の経験から」ということで久山庫平教師を講師にお話を伺った。今回の研修では特別ゲストとして宮下重康兄（玉川教会）もお迎えしてお話を伺った。

宮下兄は生命保険会社で営業のお仕事をされたが、その時の経験をお話しいただいた。生命保険会社の営業と言えば大変厳しいお仕事であると私たちは理解しているが、宮下兄は上司として多くの部下の方々を指導なさった。部下には職種柄女性が多かったと言うことで、営業に携わる女性社員をどのようにまとめられたのか、励まされたのか、意欲を持たせたのか、一人ひとりへの丁寧な対応が印象的であった。時には時間外に於いても対応された。すべての点で牧師の牧会にも通じるものがあり、身につまされる思いをもってお聞きした。奮起を促された教師も少なくなかったのではないかと思う。

久山先生は現在河辺伝道所の主任担任であられるが、南三鷹教会に50年奉仕をされ、フィッシャー幼稚園園長としても長くお働きになられた。牧師は一つの教会にできるだけ長く奉仕をすることが大切とのこと。牧師になるということは召命観に留まらず、本当に内的に召命を感じる召命感にまで至ることが必要である。説教に心砕くことは当然であるが、自己中心ではなく、つまり自分の考えや意見を語るのではなく、徹底的に聖書を語ることに心がけたとのこと。そして語った説教は聞く人に渡すものであり、聞いた人がどのように受け止めていくかは委ねるものである。牧会については一人ひとりの魂への配慮を心がけ、ご家族への配慮も心がけた。教会員とは対決しなければならないときはあるが、決して対立するのではないというお話は示唆深いものがあった。

（石岡記念教会牧師）

2013年度 第2回婦人全体集会報告

寺澤　縫子（教区婦人委員長）

10月11日（金）13：00～15：30まで、国立教会において、第２回教区婦人全体集会が開催された。

全国教会婦人会連合の今期23期主題は、「キリストに結ばれて苦しみを分かち合い、福音の希望に生きる―コロサイの信徒への手紙を学びつつ―」である。これに沿って学ぶ私たちであるが、秋の集会は特に「講演」の形をとり、特別な思いを持って待ち望む。今回は２年前に伝道協議会でお招きした左近豊（さこんとむ）先生で、御専攻の旧約聖書（特に「哀歌」）を絡めて、どの様にお話してくださるか、ワクワクした思いで、その日を迎えた。期待どおりの素晴らしい魅力溢れるお話に、秋の一日、聖書を学ぶ喜びに満たされた。そして主にあって一つ、の思いを強くした。

講演題は「聖書に学ぶ－苦楽をキリストにあって担う群れの形成」、聖書箇所はコロサイの信徒への手紙１章24－29節、イザヤ書46章３－４節である。コロサイ１：24の「キリストの苦しみの欠けたところを、身をもって満たしています」との不思議な言い回しの箇所を「十字架の主にとって、苦しみは完成して終わりではなく、今も尚、人間としての苦しみを私達と共にしていてくださる。キリストを頭とする教会は終わりの日まで、全き平安の訪れるその日まで、その苦しみに与り、主が共に負ってくださる重荷を負って、キリストに従う者とされている」と説き明かしをいただき、モヤモヤが晴れた思いであった。喜ぶ者と共に喜び、悲しむ者と共に悲しむ共同体を形成してきた書物である聖書―嘆きを考慮に入れない喜びも、賛美を知らない哀しみもない。哀歌の中の嘆きに沈黙する神は、即答しない。むしろ全く違う方向から慰めをいただく。イザヤ書46章は哀歌への応答の一つである。教会は、苦しみと喜びをキリストにあって、キリストに倣い、キリストを頭として担う群れ。今こそ教会は、痛みや苦しむ者の居場所として、キリストを証しする小舟として漕ぎ出すものでありたいと結ばれた。参加者150名（38教会）。

（原町田教会員）

教区壮年委員会 講演会の開催

壮年委員会　玉澤　武之

教区壮年委員会は、2013年11月10日（日）午後３時から吉祥寺教会において、「ハイデルベルク信仰問答・刊行450年」を記念する講演会を開催しました。講師には、東京神学大学教授の棚村重行先生を迎え、「ハイデルベルク信仰問答～歴史的・神学的意義と現代における役割～」について語っていただきました。概要は次の通りです。講演会の参加者は77名でした。

1517年の宗教改革以後の宗教間紛争による領土争奪の中で、領内の全ての階層が同一で強固な信仰を確立する必要があり、領民が団結するための信仰問答がつくられた。ハイデルベルク信仰問答は、ルター派とカルヴァン派の信仰告白として作成され、信徒の教育、特に幼児洗礼者の堅信礼への準備のために使われた。

ハイデルベルク信仰問答129問の構造は、ルターやカルヴァンが築いたロマ書の三部構造に似せて、全体を三重構造で構成し、最上位は序（２問）に続き、惨めさ（９問）、救い（74問）、感謝（44問）の３部。下位の構造もまた３部構成で整理された。第１部の惨めさでは、創造とアダムの堕落。第２部の救いでは、仲保者なる神と人のキリスト論、使徒信条における子なる神の救いの事業などを多く取り上げている。第３部の感謝では、十戒、主の祈りの分量が多い。

その後、主要な信仰問答を読み、信仰問答の全体を再確認し、その深い内容を味わった。

近代が目指した自律主義とエゴによる悲劇から逃れ、仲保者キリストの十字架と復活の救いのみわざにより実現されたキリストを頭とした主の神秘体へと、御言葉と聖礼典を通して結合され、「キリストのものとされた慰め」に生かされる神律的な霊的生活形成を目指したいものである。

（阿佐ヶ谷教会員）

第15回全体研修会の案内

日　時：2014年３月21日（金／祝）午前10：30～午後３：00
会　場：阿佐ヶ谷教会
テーマ：「愛～全ての生命のために～」
講　演：原発事故の向こうに見えるもの」
　　片岡輝美（会津放射能情報センター代表）

東日本大震災支援チャリティーコンサートのご案内

日　時：2014年３月８日（土）　午後２時～４時
場　所：阿佐ヶ谷教会
出　演：本田路津子（ゴスペルシンガー）

立川からしだね伝道所が朝礼拝を始めました

教区開拓伝道実行委員会委員長
道家　紀一

立川からしだね伝道所の朝礼拝が始まりました。最初の説教奉仕を仰せつかったのは、実行委員長の道家でした。10月20日の朝10時30分、集まったのは、道家以外には教職１名、信徒３名、計５名でした。出席者なしでの出発も覚悟していただけに、大いに励まされました。一桁台の出席者で頑張っている全国の諸教会のことを思い起こしました。

2008年９月７日、立川駅南口のスタディオでの夕礼拝から始まった立川開拓伝道はどうしても超えなければならない“課題”がありました。「朝礼拝の開始」でした。夕礼拝に出席する人は、自分の教会や伝道所で朝礼拝を守っている人が大半です。しかし、その中にあって少数ですが、教会を探し求めている方々がいました。その方々の願いと祈りは、「朝礼拝の開始」でした。

今年度の実行委員会は朝礼拝開始について協議し続けました。その結果、「とにかく、朝礼拝を始めよう」という一致に至りました。しかし、それからが大変でした。「本当に出来るのだろうか」と。そのとき、次の御言葉が聞こえて来ました。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ」（使徒言行録18章９節－10節）。すでに60数年、この地で伝道の戦いを続けている先達の教会、立川教会のことも思い起こしました。「信じて踏み出す他にない！」実行委員会は決断しました。

西東京教区は、祈りを一つにして、立川での開拓伝道を開始しましたが、十分な準備があったわけではありません。“無謀”といわれても仕方ない始め方をしたかもしれません。しかし神はいわれます。「立川の町には、御言葉を待っている人々がいるではないか」と。人の思いに立てば、一歩も前に進むことは出来ないでしょう。「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」（ヘブライ人への手紙11章１節）との祈りと確信とが、立川での開拓伝道を支えています。

現在、朝礼拝の説教は、教職の実行委員、今現在は教会を担当されていない教団教師、隠退教師の奉仕によって守られています。このこともお覚えください。可能ならぜひ一度、立川からしだね伝道所の朝礼拝に出席してください。さらなる祈りと支援をお願いします。

（井草教会牧師）

行　事　案　内

◆立川からしだね伝道所クリスマス礼拝
日時：12月22日（日）
　朝　10：30～11：30　増金潔牧師
　夕　18：30～19：30　大村栄牧師
場所：立川からしだね伝道所
　（立川市高松町3-13-22春城ビル２階）
問い合わせ先：道家紀一牧師
　（井草教会　TEL 03-3395-3026）

◆教区青年会クリスマス
日時：12月26日（木）17：00～
場所：南三鷹教会
問い合わせ先：岩田昌路牧師
　（狛江教会　TEL 03-3489-5044）

◆中高生クリスマス会（教育部主催）
日時：12月26日（木）15：00～18：00
場所：SCF（学生キリスト教友愛会）
会費：無料（500円程度のプレゼント持参）
問い合わせ先：竹前治牧師
　（清瀬信愛教会　TEL 042-491-0851）

◆教区一泊教師研修会
日時：2014年２月３日（月）～４日（火）
場所：小金井聖霊修道院マリア館
　（小金井市）
講師：小泉健先生
　（東京神学大学・実践神学）
テーマ：「説教」（仮題）
問い合わせ先：長谷川洋介牧師
　（石岡記念教会　TEL 042-343-0228）

◆募金推進委員全体会
日時：2014年２月８日（土）
　14：00～16：00
場所：吉祥寺教会

◆教区２・11集会
日時：２月11日（火）
　10：00～12：00
会場：未定
講師：笹川紀勝さん
　（憲法学者、国際基督教大学名誉教授、日本キリスト教会南柏教会員）
問い合わせ先：平池芳樹牧師
　（三鷹教会　TEL 0422-44-2041）

◆教区教会役員研修会
日時：２月22日（土）14：00～16：00
場所：高井戸教会
テーマ：「教会役員の務め」
講師：楠本史郎先生（北陸学院院長）
問い合わせ先：教区事務所

◆ 2013年度第３回教区婦人全体集会
日時：2014年２月25日（火）
　10：30～12：00
場所：東中野教会
説教者：柳下明子牧師
　（武蔵野緑教会、日本聖書神学校）
問い合わせ先：

◆世界祈祷日集会
日時：2014年３月７日（金）
テーマ：エジプトからのメッセージ
　「砂漠を流れる水のように」
・東京地区　13：30～
　於：富士見町教会
・町田・八王子地区　10：30～
　於：鶴川教会

◆高校生春期キャンプ（教育部主催）
日時：３月26日（水）～28日（金）
場所：未定
問い合わせ先：竹前治牧師（同上）

教　会　往　来

◇今年３月まで調布教会牧師であられた河村博先生が、９月30日、逝去され、10月３日、調布教会にて葬儀が執り行われました。69歳でした。長く調布教会を牧会され、新会堂設立にも大きなお働きをなされました。主の慰めを心よりお祈りいたします。

◇11月24日（日）に吉祥寺教会にて行われた教区臨時総会にて、牧内寛助教師（昭島教会担任教師）と矢田洋子教師（吉祥寺教会担任教師）が、按手礼を受領されました。これからの歩みに祝福をお祈りいたします。

編　集　後　記

今回も教区報に原稿をお寄せくださいました方々に感謝申し上げます。中でも特に、興部伝道所との交流プログラムに参加した子どもたちの、喜びに満ちた文章に心温まる思いがいたします。限られた交流の期間でも、すぐに親しくなれる子どもたちの姿、そして喜びをもって神様を賛美する子どもたちの姿を通して、私たちは隣人との間に壁を作っていないか、喜びをもった教会生活を送っているか……自分自身の信仰を見つめ直したいと思います。（木村智次）

2013年　冬（44号）
2013年12月16日発行
〒166-0003
東京都杉並区高円寺南5-14-9
日本基督教団　西東京教区
発行人　真壁　巌
（TEL）03-5305-3991
（FAX）03-5305-4823
uccj-nishitokyo@jcom.home.ne.jp
http://www.uccj-wt.org/
編集　教区報編集委員会　五十嵐 成見（長）／木村 智次／辻　宏／村山 めぐみ／吉村 謙